

よこはま子ども国際平和 スピーチコンテスト

毎年開催されているよこはま国際平和スピーチコンテストが行われました。本校では、6年生全員が、平和な社会を目指すために必要なことや自分たちに取り組めることを考えて、意見文を書きました。いじめや環境、様々な視点から平和について考えることができました。また、余金城さんの意見文は、学校代表として区の審査会に出品され第二審査まで進み、金沢公会堂でスピーチを行いました。代表になった余さんの意見文を紹介します。



個性やちがいを認め合おう

余 金城

他の人の個性やちがうところをお互いに認め合い、友達のような関係になること。それが、平和でよりよい未来につながるっていくと、ぼくは考えています。

ぼくは、国籍が違います。そのため、小さいころ、他の人からよくからかわれ、こわかったです。友達をつくりたいとは思っていても、またからかわれるのがいやで、友達をつくることができなくて、さびしかったです。

でも、あるとき、勇気をふりしぼって友達に声をかけてみたら、返事が返ってきました。それから、がんばって声をかけ続けたら、少しずつ話せるようになってきました。また、ぼく自身も考えを変えて、相手のいいところを見つけて誰とでも仲良くするようにしました。そうしたら、友達が増え、クラスの人たちも、ぼくの国籍が違うことなど関係なく仲良くしてくれるようになりました。友達は、自分の仲間です。悲しいときやつらいときには、助けてくれます。楽しいときも、友達といっしょだともっと楽しくなります。今のクラスは、みんなを笑わせて雰囲気をごませてくれる人、やさしい人、おとなしいけれど真面目な人等、色々な個性であふれています。そんなみんなと友達だから、毎日がとても楽しく感じられるのです。

しかし、本やテレビからの情報で、国籍や人種が違うというだけで、国から排除されて国際問題になったことがあることを知りました。ぼくの経験から考えても、国籍や人種が違うからといって差別を受けるのは間違っていると思います。だからこそ、個性やちがいを認め合える友達のような関係はずっと守っていかなければならないのだと強く思います。「一年生になったら」という歌は、「友達百人で何かをすることが一人で何かをするよりとても楽しいのだ」と伝えていきます。釜利谷南小学校では、この歌をヒントにした「友達五十人とあいさつしようカード」という児童会での取り組みがあり、どの学年や大人に対しても、自分から進んであいさつし、できたらサインをもらおうという活動をしています。二冊目が終わって、歌のように百人達成する人もたくさん出ているので、全校でがんばっています。このように、自分とちがう個性の相手とも仲良くしようとする人が増えていけば、差別をしない人が増えていくのではないのでしょうか。

ぼくは差別のない世界をつくるために、お互いの個性やちがいを認め合える友達関係をもっと広げられるよう児童会の活動のように、自分ができることを考えて行動していきたいと思っています。

ニシの木 にこにこ人権週間（12月3日～12月6日）

釜利谷南小学校では、「だれもが、安心して、豊かに」生活できる学校・学年・学級づくりを目指しています。今年度のテーマをもとに、各クラスで取組目標を立てました。

テーマ

『だれにとっても居心地のよい学校づくり』

「いじめをしない・させない・見逃さない」～一人ひとりの命の大切さを考える～

各クラスの取組目標

- <3・4組> 「ともだちを たいせつに 」～なかよく・やさしく・あいてのきもちをかんがえて～
- <1年1組> 「みんななかよく たのしいくらす」
- <1年2組> 「やさしいきもちで なかよくなろう」
- <2年1組> 「みんなとなかよく ともだちにやさしく すごせる学校」
- <2年2組> 「なかよく たのしく けんかをしない2年2組」
- <3年1組> 「だれとでも なかよくあそぼう みんなをみとめあえるクラスにしよう」
- <3年2組> 「みんなに やさしく たのしく すごそう」
- <4年1組> 「Eクラス」
 - ・集会など、いろいろな経験をクラスで共有していじめのない仲のEクラスにしよう。
- <4年2組> 「ふ・わ・ふ・わ スタンプ」
 - ・友達の良いところを見つけて伝え合おう。ふわふわ言葉を使おう。
- <5年1組> 「ダイヤモンドのように 認め合い みんな輝くクラスにしよう」
 - ・友達に積極的に声をかけていこう。
- <5年2組> 「One For All, All For One」
 - ・友達の良いところをみつけて、認め合おう。
- <6年1組> 「レインボートレイン28号」
 - ・いろいろなグループで給食を食べ、交流を深めよう。友達の良いところや嬉しかったことを伝え合おう。
- <6年2組> 「スマイル100% SHINING28」
 - ・友達の良いところを認め合おう。困っていたら助け合おう。相手の気持ちを考えて行動しよう。

☆人権週間では、元墨田区職員の秋田昌子さんに「いのちの大切さを考える授業」をしていただきました。体験を通した言葉は、重みがあり、1年生から6年生まで真剣な表情で話を聞いている姿が印象的でした。また、人権朝会では、副校長先生から「子ども六法」という本を通して、「いじめとはどんなことか」についてお話がありました。この人権週間で感じたことをいかして、「だれもが居心地のよい学校・学級」を目指して、一人一人が相手のことを思いやることのできる、温かい学校にしていきたいです。